

先週の説教要旨

「約束によって与えられる」井上隆晶牧師
ガラテヤ 3 : 21～29、マタイ 20 : 9～16

❶【ガラテヤ教会の問題＝律法に戻ろうとする力】ガラテヤ教会の問題は何かと言うと、パウロの後からやってきた偽の教師たちが、パウロのことを「彼は使徒ではない」と言って、パウロが伝えたのとは違うキリストや、違った福音を伝えたことにあります。そこでパウロは「あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、私はあきれ果てています。」(ガラテヤ 1 : 6) と語り、「あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。」(1 : 9) と呪詛文まで書いています。この「ほかの福音」とは何かというと、キリストだけでは救われず「ユダヤ人のように生活し、割礼を受け、手を洗う儀式をしなければ救われない」という教えです。ユダヤ律法主義に逆戻りさせようとする働きです。これとは反対にコリント教会では、偽の教師たちによって持ち込まれた「私にはすべてのことが許されている」(1 コリント 6 : 12) という教えの問題がありました。今でもこの二つの教えは形を変えて現れています。律法と福音を対立させて、律法＝行いであり、福音＝信仰だと読み間違え、律法を行わなくても良い、信じるだけで良いのだと教える教師がいます。それでは救い派と同じ異端になります。信仰と行いは対立させるものではなく、共存させるものです。パウロが「律法の行いによって救われない」と語る時は「人間の力によって人は救われるのではない」という意味であり、「福音によって救われる」と語る時には、キリストによって人は救われるのだという意味なのです。人間の力に頼るのではなく、

キリストの力に頼れと言いたかったのです。

❷【キリスト教とは徹底的に約束の宗教であること】パウロはキリスト教とは、徹底的に「神の約束の宗教」とであると言います。アブラハムに対して神様は土地と子孫を与えると約束をされました。彼がその約束を聞いたのは75歳の時です。しかし子供ができないまま、どんどん歳をとっていくのが不安になった彼は、妻サラではなくて女奴隷ハガルによって跡継ぎをもうけました。そうやって人間の策略によって生まれたのがイシュマエルであり、今のアラブ人のルーツです。でもアブラハムが100歳になった時、約束の子イサクが生まれ、その約束の子が彼の跡継ぎになったのです。「地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。」(創世記 26 : 4) という約束(アブラハム契約)はアブラハムからイサクへ、ヤコブへと受け継がれてゆきました。律法というのは、このアブラハム契約の430年後に出来たものだと言っています。先に「約束」があり、後に「律法」ができたのです。だからアブラハムの子孫であるキリストによって、すべての国民は祝福に入るのであって、律法を守り行うことによって祝福に入るのではないということです。

❸【律法の役割とは】パウロは律法とは私たちの違反を明らかにするために与えられたものだと言います。つまり人間の力では自分も人も社会も救うことができないということを悟らせるためにあるのです。ところがユダヤ人は律法を、自分の無力さを知るためではなく、自分の優越性を保証するため、他民族を軽蔑するために用いたのです。自分は無力であると悟るからこそキリストが必用になります。自分に力があると思う人は、キリストを必要とはしません。↑

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

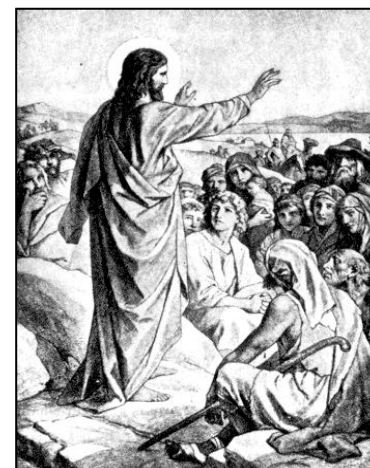
E メールアドレス : 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆 晶

2026年7月19日 No.1882



《山上の教え》

都島教会の 2026 年度の宣教方針

標語 《主キリストの忠実な僕になろう》

聖句 「目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。」(マタイ 24 : 42)

2026 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 時をよく用いて、出会った人を礼拝にお誘いします。
- 3 み言葉を聞くだけでなく、行います。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。